

浮気保育園園舎改築等基本設計・実施設計委託業務コンペにかかる報告について

浮気保育園園舎改築等基本設計・実施設計委託業務（以下、「本業務」という。）を委託する設計者を公募型コンペ方式により選定するに当たり、浮気保育園園舎改築基本設計・実施設計コンペ審査委員会（以下、「審査委員会」という。）において審査された結果について、審査講評等を公表します。

平成 26 年 1 月 17 日

守山市長 宮 本 和 宏

1 各提案に対する評価の概要

2次審査応募者の各提案に対する審査委員会における評価の概要は、次のとおりである。

(1) 最優秀作品の評価の概要

提案番号 67 番

園舎および園庭に対する日影・採光等の配慮、公園を中心とした、園庭・自治会館との連携による周辺環境との調和に配慮した一体性が高い保育園と公園の敷地配置など、本コンペにおける基本理念および基本方針をより深く踏まえた提案内容となっている。

なかでも、保育園敷地と公園敷地の境界部に設けられた“まちの縁側”については近隣住民の交流を生み出すことによる地域交流促進と共に、敷地全体の見通しに配慮した安全安心性の向上が期待できる提案内容であり、新しい公共空間の提供として大いに評価できるものである。

園舎内については、玄関から保育室までの動線が明快であり、保育園の運営目線で使い勝手を重視したシンプルな諸室配置計画であると共に、保育室間の間仕切りがなく自由度の高い本プランは、各年齢の異年齢交流が期待できる提案内容となっている。

また、公園については周辺道路からの見通しも良く地域住民の憩いの場として利用できることはもとより、大部分が自治会館と隣接していることから災害時において自治会館と一体となった防災機能が期待できる提案内容となっている。

また一体性の高い敷地利用からは、地域に開かれたうえで子育てを大切にする文化が紡がれることが期待でき、今後の守山市の保育と保育園整備のあり方を示すモデル性をもった象徴的な提案と評価できる。周辺環境の特性を踏まえ新しい世代のための公共建築を目指す守山市が選ぶ最適な提案と評価できる。

(2) 次点作品の評価の概要

提案番号 83 番

“創造の「園」をつくる一庭園のなかの保育園“としたコンセプトのもと遊び心ある園庭の連続性から、子ども達が創造性と喜びを生み出す可能性の場として、保育環境に配慮した諸室配置計画となっており、含め全体としてよく考えられた提案内容である。仮設園舎を必要としない点も評価できる。

また、公園についても自治会館と隣接しており周辺環境との機能調和を意識したものであると共に、公園内に設けられた築山によって近隣への騒音にも配慮し

ている点についても評価できる。

しかし、地上園庭を、プレイグラウンド・中庭・観察園の3つに分散する提案は、園児の年齢に応じた使い分けができる一方で、全園児が集まって利用できる十分なスペースがなく、園庭を利用した異年齢児の交流には課題がある。

また、2歳児室・3歳児室・中庭・観察庭と隣地建物の日影関係が明確に解決されていないと感じられる点は大きな課題であり、本コンペにおける基本理念および基本方針を踏まえた提案内容とはなっているものの、保育環境に関する点については、最優秀作品に比べ相対的に及ばなかったと評価できる。

(3) その他作品の評価の概要

提案番号 12 番

1.2mグリットの立体テラス部を組み合わせた園舎のデザインは、外部環境と融合させながら、子どもの冒険心をくすぐる空間を生み出す、新しい建築的提案であり大いに評価できる。

また、既存樹木と植樹した樹木とにより構成される「緑の輪」も、公園と保育園を一体的な風景として見せており、本コンペにおける基本理念および基本方針を踏まえた提案内容といえる。

園舎についても全ての保育室ならびに園庭の採光が十分に確保されており、保育環境に配慮された設計プランとなっている。仮設園舎を必要としない点も評価できる。

一方で、0・1歳の乳児も利用する保育園といった施設からすると立体テラス部は、管理運営の観点から大きな課題ともなってしまう。公園部についても死角が多いことから、安全面での懸念が目立つ等、課題の大きな提案内容である。

また、保育園と園庭により自治会館と公園との動線が分離されていることから、全体として最優秀作品および次点作品に及ばなかったといえる。

提案番号 37 番

敷地全体をひとつの公園として捉え、“公園にある大きな遊具としての保育園”としたコンセプトのもと、公園・園庭・保育園・屋上園庭の繋がりを意識したシンプルかつコンパクトな設計プランと、園児や保護者にとっても分かりやすく諸室配置計画がまとめられている点は、大いに評価できる。

一方で、職員室から各保育室までの動線が長いことや、雨天時の対応等、保育環境に関する点についての懸念事項が目立った。送迎車両用の動線と食材搬入用の動線が明確に分離されていないことも課題である。

また、自治会館の前に調理スペースが配置されている等、全体として最終優秀作品・次点作品に及ばなかったと言える。

提案番号 103 番

”軒下空間”として保育園の正門から玄関までの底下を活かした動線計画は、子どもたちや保護者間の様々な交流が期待できる、さわやかで開放的な、保育園の新しい空間が提案されている。

底下・廊下・屋上園庭など、シンプルな設計プランの中に、子どもたちの遊び場となるスペースがたくさん盛り込まれていながら、視認性が高く、管理運営のしやすい点は大いに評価できる。

また、公園についても自治会館と隣接しており、周辺環境との機能調和についても配慮された提案である。

一方で、正門から玄関までの長い動線や、子育て支援室と公園との繋がり、職員室内に相談室があるなど、保育環境に関する視点からは諸室配置の改善が目立つプランであることから、全体として最終優秀作品・次点作品に及ばなかったと言える。

2 選定委員会の総評

非常にタイトな提案期間のなか、本設計コンペに対して全国から129者から提案をいただいたことに深謝申し上げたい。

各応募者のご尽力により、豊かな保育環境のあり方、建築と自然環境や景観との関係、周辺環境との機能連携や地域コミュニティとの関わりなど、新たな保育園建築のあり方に対する貴重な示唆が得られたことは、非常に価値があることと考えている。

最優秀作品は、周辺環境との調和を意識した保育園および公園の一体的整備といった本コンペの趣旨を深く理解しており、配置計画が一番優れていたと言える。また、敷地全体に対しての日照・採光・通風等への配慮が明確である点も大いに評価できる。

保育園については、園庭を囲むL字型配置によって管理しやすく、保育室を間仕切りのない開放的な空間として活用することにより、質の高い保育環境を確保したうえで各年齢の発達段階に応じた保育の実施と異年齢間交流が期待できる提案内容となっていることから、今後の守山市の保育と保育園整備のあり方を示すモデル性をもった提案であると判断できる。

また、公園については分散される形となっているが、周辺からの見通しも良好であり、大部分は自治会館側に配置していることから、周辺環境との機能連携と調和に配慮した安全・安心で地域コミュニティ性の高い提案であると判断できる。

これらを踏まえ、最優秀提案については、守山市が選ぶ最適な提案と評価できる一方で、本提案の個性を際立たせている”まちの縁側”としての活用が期待できる屋外デッキは、整備費用や将来の維持管理に懸念があることが指摘された。しかし、現在の構造技術、施工管理体制によりコンセプトからずれることなく、懸念は解消されると判断できる。

また、工事期間中の仮設園舎整備に関する安全性の確保、調理スペース内の配置および配膳動線、提案の大きな魅力である間仕切りのない開放的な保育空間の活用する平面プランについてはコンセプトが変更されることのないよう今後の基本設計・実施設計において、保護者、および保育園ならびに地元との協議を通じた意見を踏まえるなか、より魅力ある設計にまとめられることが期待できると考える。

最後に、この浮気保育園園舎改築等基本設計・実施設計委託業務コンペは、公開プレゼンテーションや市民投票を経て、高い透明性や公正性を確保しながら実施されている点において、守山市だけでなく我が国の今後の公共建築のあり方を先導する事業であり、審査委員会として、守山市と本設計コンペに対する参加者の熱意と努力に対して敬意を表するものである。

以上

平成26年1月17日

浮気保育園園舎改築等基本設計・実施設計コンペ審査委員会

委員長

布野修司